

リーチ工房交流プログラム 2026 関連イベント

4/12
SAT
14:00-16:00

①トークイベント「わたしとセントアイヴス」& 応募説明会

【日 時】2025年4月12日(土) 14:00~16:00

【場 所】益子国際工芸交流館

【登壇者】

第1部：濱田友緒(濱田窯代表・濱田庄司記念益子参考館館長)

「益子とセントアイヴスの繋がり」

第2部：榎田智(えのきだ窯)、岩下宗晶(岩下製陶)

「リーチ工房に滞在した経験について」

5/11
SAN
18:00-19:30

②トークイベント「リーチ工房のあゆみ」& 応募説明会

【日 時】2025年5月11日(日) 18:00~19:30

【場 所】益子国際工芸交流館

【登壇者】マシュー・タイアス(リーチ工房学芸員・副館長)

「リーチ工房の歴史と交流プログラムについて」

※通訳あり

- ・ いずれも無料、予約不要。
- ・ トーク終了後に応募説明会を行います。その後30分間は、応募に関する相談や質問を個別にお受けいたします。美術館スタッフより回答可能なものについてはお答えいたしますので、お気軽にお声がけください。
- ・ リーチ工房交流プログラム 2026への応募を検討されている方のほか、トークに関心のある方はどなたでも参加いただけます。

《応募・問い合わせ先》

益子陶芸美術館 益子国際工芸交流事業

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子 3021

TEL 0285-72-7555 FAX 0285-72-7600

E-mail residence@mashiko-museum.jp

http://www.mashiko-museum.jp/



益子陶芸美術館 / 益子国際工芸交流事業 リーチ工房交流プログラム 2026 (セントアイヴス / イギリス)

募集要項

滞在期間：2026.6.1~7.31

リーチ工房交流プログラム 2026 事業目的

益子陶芸美術館は、益子町と国内外のアーティストとの交流促進や、益子の陶芸(工芸)文化の共有を目指し、2014年5月より益子国際工芸交流事業を開始しました。本事業のうち、アーティスト・イン・レジデンス・プログラムでは、これまでに、陶芸家22名と染色家1名が益子で滞在制作を行っています。

また2020年には、濱田庄司がバーナード・リーチとともにイギリスのセントアイヴスに渡り100年を迎えたことを記念し、初めてとなる派遣型のプログラムを企画しました。ここでは、益子の陶芸家2名がリーチ工房にて現地スタッフとともに働き、技術の向上のみならず、深い友情を育みました。現代にも続く益子とリーチ工房との絆が、本プログラムに参加される皆様と共に、これから先の未来にも豊かにつながることを願っています。

プログラム概要

第2回目の開催となる本プログラムの主なゴールは、益子の若手陶芸家が、イギリスのリーチ工房で完全な没入体験をすることです。応募に採用された方は、約2ヶ月間、スタンダードウェア製造工房で働く中で、制作方法や工程について学ぶことができます。また、作業時間外や週末には、自身のうつわを作ることができます。制作した作品が十分な水準に達している場合には、リーチ工房のショップでの販売も可能です。(詳細は、P.9を参照ください)

また、滞在中にはリーチ工房で講演会をしていただきます。現地での日々の様子は、ご自身のSNS等で積極的に発信してください。さらに帰国後には、益子陶芸美術館にて報告会を行うことで、この経験を益子町民にもぜひ還元してください。



リーチ工房の外観
© Matthew Tyas



リーチ工房の入口
© Matthew Tyas

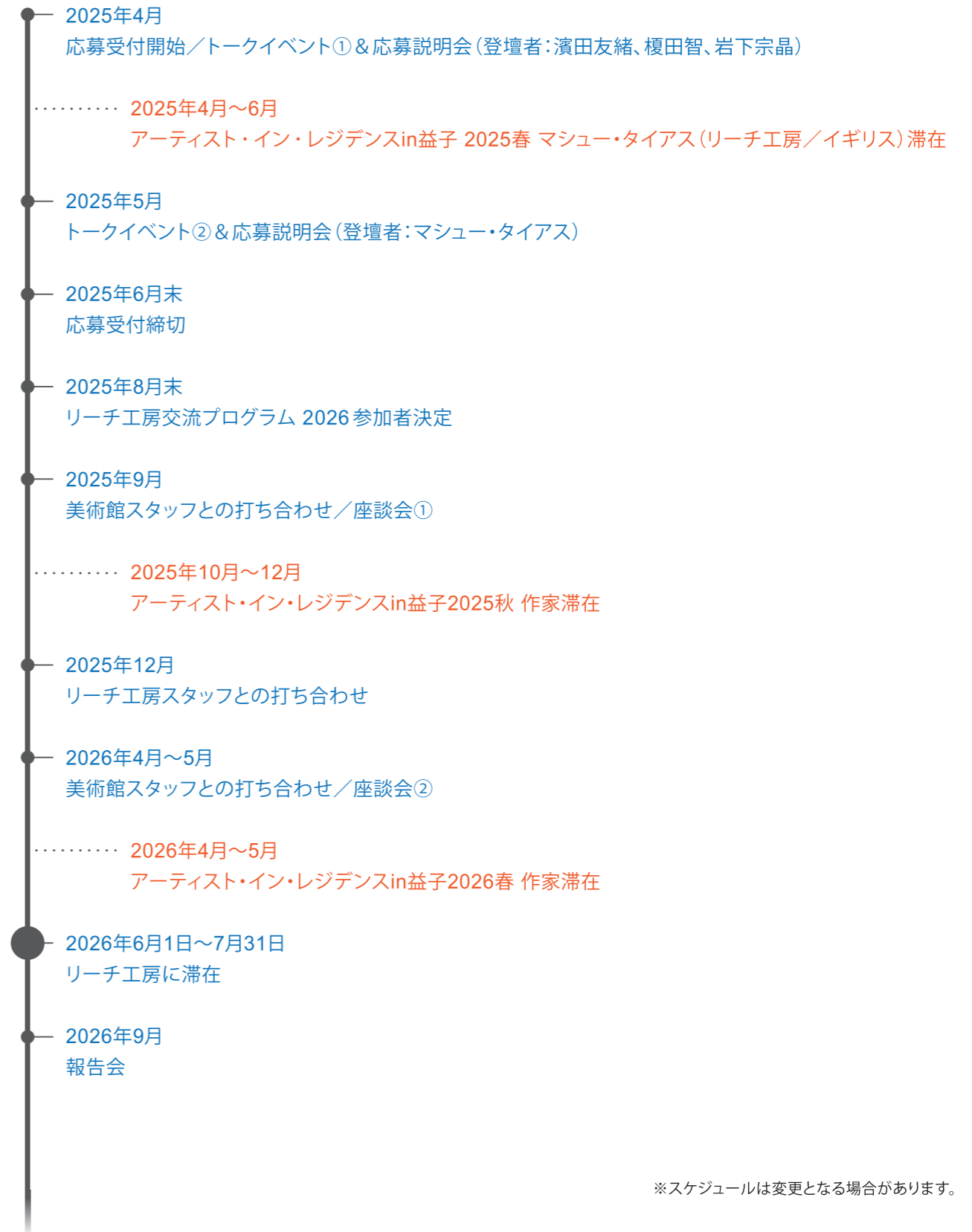


益子町中学生派遣時の楽焼体験(2018)
© Sarah White



セントアイヴス
© 岩下宗晶

スケジュール



※スケジュールは変更となる場合があります。

■ リーチ工房交流プログラム2026スケジュール
■ 益子国際工芸交流事業スケジュール

リーチ工房からのメッセージ

1920年にバーナード・リーチと濱田庄司によって設立されて以来、リーチ工房は学びの場であり、100年以上の間、世界中の人々がセントアイヴスを訪れ、工芸の実践と知識の共有を図ってきました。私にとって、これは私たちのレガシーの最も重要な部分であり、スタジオ・ポタリーを国際的に成長し進化し続ける持続的な芸術運動とする原動力のひとつです。この交流プログラムが、新しい世代の陶芸家たちにとって、リーチと濱田との歴史的なコラボレーションの意義を再び呼び起こすものとなることを心から願っています。

ルロフ・ウィス (リーチ工房・作陶主任)

Message from the Leach Pottery

Since its founding in 1920 by Bernard Leach and Hamada Shoji the Leach Pottery has been a place of learning and for over a century. People from all over the world travel to St Ives to practice and share knowledge of the craft. For me, this is one the most important parts of our legacy and a driving force in making studio pottery an enduring artistic movement that continues to grow and evolve internationally. It is my sincere hope that this exchange programme will re-ignite the significance of the historic collaboration between Leach and Hamada for a new generation of potters.

Roelof Uys
Lead Potter



リーチ工房の様子
© Callum Cowie

前回プログラム参加者からのメッセージ

第1回目の開催となった2022年には、益子の陶芸家である榎田 智さん(えのきだ窯)、岩下 宗晶さん(岩下製陶)の2名が参加しました。

プログラムを通して得た経験とメッセージを、お二人が撮影・提供した写真と共に紹介します。



リーチ工房研修プログラムに応募した2020年にはまさかこんな未来が待っているとは思っていませんでした。セントアイヴス滞在中ジェレミー・リーチさんにお会い出来たり、良い仲間に恵まれてたくさんの素晴らしい出会いがありました。帰国後も引き続き民藝好きなお客様や「広報で見たよ」と地元の方まで、ほんとに多くの方々にお声をかけてもらい、今もお文字通りぼくの“世界”はどんどん広がっています。こんなに嬉しいことは他にあるでしょうか。Thank you for your kindness!!

榎田 智(えのきだ窯)



セントアイヴスでの2か月間は、挑戦の連続でした。リーチ工房で学んだスタンダードウェアの技術は、私の陶芸の枠を広げ、新たな作品づくりへの道を示してくれました。慣れない環境での生活は不安もあると思いますが、現地の人々との交流を通し、深い友情を築くことができました。今でも仲間たちに会いたいと思うほど、その時間は私の人生の宝物です。技術だけでなく友情と人としての成長をもたらしてくれる絶好のチャンスです!

岩下 宗晶(岩下製陶)



募集要項

1. 滞在制作先

リーチ工房 (セントアイヴス/イギリス)

The Leach Pottery

住所: Higher Stennack, St Ives, Cornwall TR26 2HE U.K.

電話: +44 (0) 1736 799703

ウェブサイト: <https://www.leachpottery.com/>

2. 滞在期間

2026年6月1日(月)～7月31日(金) (予定)

3. 応募資格及び募集人数

- (1) 益子町在住または在勤の若手陶芸家1名
(応募時点で18歳以上、1980年4月2日以降生まれの方)
- (2) 最低限日常会話程度の英語が理解できる方
- (3) 滞在中の生活費が確保できる方
- (4) 健康状態が良好である方
- (5) 以下の条件に同意できる方
 1. リーチ工房で講演会をおこなうこと
 2. 滞在中の作業風景、生活風景を記録し(写真、動画、文章など)、積極的に自身のSNSで発信すること
 3. 帰国後、報告書の提出および益子国際工芸交流館での報告会を行うこと

4. 支援内容

〈リーチ工房より〉

- ・渡航費(東京～ロンドン間の往復エコノミークラス航空券)
※上限1,500ポンド
- ・セントアイヴス発着の列車代
- ・宿泊施設(リーチ工房近辺のアパート)
- ・食費(500ポンド/月、2025年時点の物価に準じ、調整の可能性あり)
- ・滞在に必要なビザの取得手配および査証代
- ・作業時間外の工房利用、作品制作に必要な材料費と焼成費
個人制作に必要な粘土(最大75kg)、釉薬、焼成を含めた費用を提供します。75kgを超える作品の制作には、1kgあたり3ポンドの手数料がかかります。

〈益子陶芸美術館より〉

- ・成田もしくは羽田空港までの送迎



リーチ工房のスタンダードウェア
© Sarah White

5. 応募方法

応募用紙に必要事項を記入の上、作品のイメージ(過去3年以内に制作した作品写真10点)を添えて提出してください。

提出方法は、原則メールにてお願いいたします。手書きでの提出を希望される場合は、同封の応募用紙に記入いただき、郵送または持参ください。応募資料は返却いたしません。

応募締切 2025年6月30日(月) 17:00(必着)

郵送または持参の場合は2025年6月27日(金) 17:00(必着)

※データの応募用紙は、益子陶芸美術館のウェブサイトよりダウンロードしてください。メールで提出される場合、応募用紙はPDF形式以外の応募は受け付けません。(作品のイメージについては、形式不問)手書きで提出される場合には、応募用紙は明瞭な文字で記入してください。記入事項に不備のある書類は審査の対象となりません。選考結果はメールで連絡しますので、応募用紙に連絡のつくメールアドレスを必ず記入してください。

6. 選考方法

当館とリーチ工房で選考し、全員に連絡します。(2025年8月末予定)

※基本的に応募用紙は日本語で記入いただき、当館で英訳したものをリーチ工房に送付します。自身の英語で記入したい方は、英語版の応募用紙をダウンロードもしくは美術館に取りに来てください。

※選考についての問い合わせは受け付けておりません。ただし、リーチ工房における選考基準は以下のとおりです。

1. 基礎英語
2. 基本的な作陶スキル(同じ形状を繰り返しロクロで作ることができるなど)
3. なぜリーチ工房に来たいのか、説得力のある理由を示すことができる
4. チームで働くことができる
5. 指示に従って、一人で作業ができる



7. 注意事項

- 渡航時に有効なパスポートを確実に取得してください。
- 飛行機(エコノミークラス)の往復チケットはリーチ工房が手配します。往復で1,500ポンドを超えるチケットを希望される場合は差額は自己負担となります。航空券の予約後、電子振込で精算してください。
- 益子陶芸美術館～成田もしくは羽田空港間は益子陶芸美術館スタッフが送迎します。
- ロンドンのヒースロー空港～セントアイヴス駅間の移動は、各自でおこなってください。列車のチケットはリーチ工房が購入します。
- セントアイヴス駅～リーチ工房間はリーチ工房スタッフが送迎します。
- 滞在期間中の海外旅行保険への加入を義務とします。益子陶芸美術館が指定した保険会社の海外旅行保険に加入し、保険証券のコピーをプログラム開始の1ヶ月前までに提出してください。
- 主催者および国際情勢等の諸般の都合により、プログラムが中止となる場合がありますのでご了承ください。

8. 滞在先

- 滞在先は、リーチ工房近辺のアパートを手配する予定です。

9. リーチ工房での作業と設備

作業について

- スタンダードウェア製造工房での作業時間は基本的に平日(月～金)の8～16時で、30分間の昼食休憩を含みます。
- スタンダードウェア製造工房は夏期休暇無しで稼働していますが、益子の陶芸家は5日間の休暇を取ることができます。
- 作業時間内において、釉薬の調合や窯焚きを任されることはありません。
- 作業時間外(平日夜や週末)に、スタンダードウェア製造工房を利用して自身の作品を作ることができます。主に、製造工房のシンガ製電動ロクロを使用することになります。リーチ式の蹴ロクロも使用できますが、ミュージアム内の昔の工房にあるため、開館時間内(月～土:10～17時)に限られます。

設備について

- 工房には以下のものが備えられています。
ロクロ・水道・電気・椅子・机・倉庫
以下のものも使用できます。事前に相談してください。
土練機・押出機・たたら板ローラー・粘土と釉薬・釉薬調合器具
- 使用できる窯は以下のとおりです。
電気窯×3 (21kW/0.4m³、18kW/0.3m³)・ガス窯×3 (1.2m³、0.9m³)・ソーダ窯×1 (0.09m³)
- リーチ工房では素焼きと、ガス窯での還元焼成を毎週おこなっており、作業時間外に作った作品をスタンダードウェアと一緒に焼くことができます。ソーダ窯は定期的に使用していないため、特別な手配が必要です。
- 粘土と釉薬は、スタンダードウェアの製造工房に備えてあるものが使用できます。粘土は磁器土も使用できます。釉薬はスタンダードウェアの製造と個人作品の制作で共用できるよう、調合済みのものが揃っています。他の釉薬を試してみたいければ、材料を確保してもらえます。新しい釉薬のレシピや実験は歓迎します。工房で調合した釉薬はみんなのもの。誰でもレシピを知ることができるようにしてあります。

粘土	・スタンダードウェア用陶土(コーンウォール州セントアグネスのダブルズ採土場で採取) 磁器を含む他の粘土もオーダー可能です。
釉薬	・陶器のスタンダードウェア用の釉薬 工房には使用可能な釉薬が数多く取り揃えられており、自分のレシピを混ぜて試すことも可能です。

※以下のサイトもご確認ください。

<https://www.leachpottery.com/glazing-information>

10. 作業時間外に制作したうつわの取り扱い

- 個人制作に必要な粘土(最大75kgまで)、釉薬、焼成を含めた費用をリーチ工房が提供します。75kgを超える作品の制作には、1kgあたり3ポンドの手数料がかかります。制作した作品が十分な水準に達している場合には、工房に併設されているショップでの販売も可能です。現地のスタッフとご相談ください。販売をする場合には、売上から販売手数料50%が差し引かれた金額が、銀行口座へと入金されます。日本に作品を持ち帰ることもできますが、輸送費は参加者の自己負担となります。帰国後、日本での販売や展示など作品の取り扱いについては、参加者本人の意向にお任せします。



リーチ工房のスタンプ
© Sarah White



リーチ工房のロゴ

リーチ工房を知る

バーナード・リーチ Bernard Leach (1887-1979)

リーチは父が植民地の判事を務めていた香港で生まれ、宣教師である母方の祖父母のもと日本で育ちました。青年期にはロンドン美術学校でエッチングを学び、再び訪れた日本で陶芸に魅了され、六世尾形乾山に師事しました。1920年、リーチは濱田庄司とともにイギリスに帰国しリーチ工房を設立、スタジオ・ポタリー運動の中心地となっていきます。1949年には、バーバラ・ヘップワースやベン・ニコルソンといった著名な芸術家とともにペンウィズ芸術協会を設立しました。リーチは世界を旅して回り、自身の知識と情熱を陶芸家たちと分かち合い、1979年に92歳でこの世を去りました。

昔の工房

この工房は、20世紀の最も影響力のある陶芸家幾人かにとっての我が家でした。リーチの著作や評判に影響を受けた弟子や学生、陶芸家たちが工房へやってきました。暖炉がリーチ工房の心臓部であり、リーチはここで個々の作品の批評を行ったり、中世のうつわの取っ手などを例に、自身の考えや哲学を教え、議論しました。

窯

1920年、濱田庄司とバーナード・リーチにより最初の窯が築かれ、3年後に到着した日本人技師・化学者であり陶工の松林鶴之助(通称「マツ」)の手によって、よりプロフェッショナル仕様の窯に生まれ変わりました。専門的には半連続倒炎式窯と呼ばれる、3室をそなえた薪窯です。この西洋初の登り窯は現在、指定史跡になっています。1930年代後半には、美観のために主に灯油と少量の薪で焼成するように改良されました。

現在の工房

今日のリーチ工房は現代的なものとなっており、スタンダードウェアは今でも陶芸家が一つひとつロクロでひき、ガス窯で還元焼成しています。作陶主任であるルロフ・ウィス率いる工房で、陶芸家たちは生計を立てながら腕を磨いています。チームは、鍛えられた製造スタッフに加え、研修生や時にはボランティアによって構成されています。リーチ工房の伝統により、今日もチームは国際的であり続けています。スタッフは協力し合うことで、より効果的に様々なうつわを作っています。リーチ工房は現在「キャピタル・プロジェクト」という大規模な改装工事を行なっています。2026年秋の完成に向けて進行中の概要は、以下のURLからもご覧いただくことができます。

<https://www.leachpottery.com/leach-pottery-development>

※改装工事に伴い、渡航前あるいは滞在中に工房の設備等に変更が生じる可能性があります。予めご了承ください。



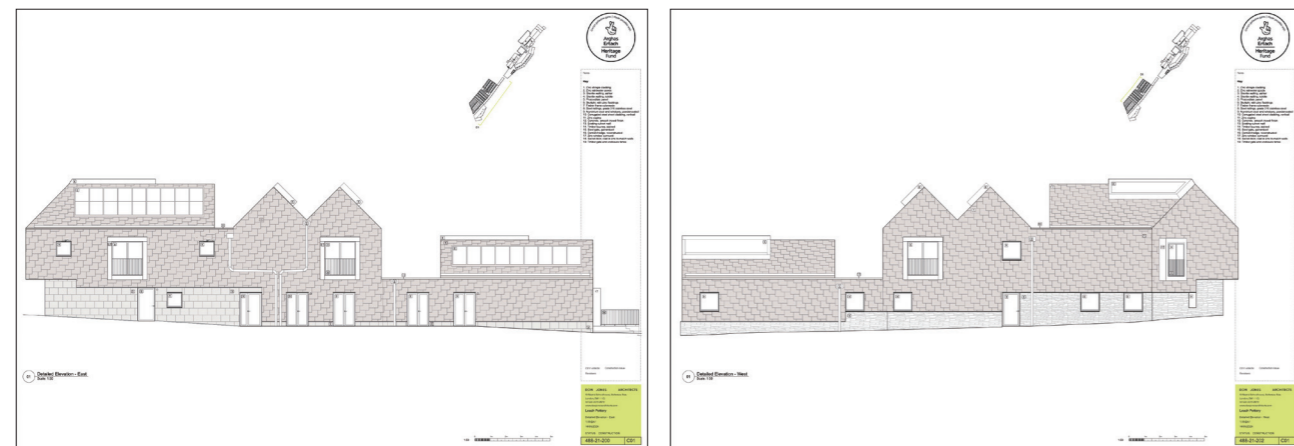
昔の工房(現在の様子)
© Matthew Tyas



暖炉の前に座るバーナード・リーチ
Image kindly provided by the Crafts Study Centre,
University for the Creative Arts.



登り窯(現在の様子)
© Matthew Tyas



キャピタル・プロジェクトの資料

セントアイヴスでの生活

町:セントアイヴスはイギリス南西部、コーンウォール州にある海辺の町で、人口はおよそ11,000人。ビーチがあり、夏場は観光客でにぎわいます。ギャラリーもたくさんあります。

アクセス:ロンドン・パディントン駅からセントアース駅経由、セントアイヴス駅までは鉄道でおよそ5時間半。セントアイヴスからは周辺地域へのバスや鉄道も。

移動:セントアイヴスは坂道が多いので、移動は徒歩が便利です。リーチ工房から市街地までは歩いて20分ほどですが、目の前からバスも出ています。

食事:リーチ工房から歩いて近くに、サンドイッチや基本的な食料が買えるお店があります。市街地には、パブやレストランなど食べる場所もたくさんあります。濱田庄司も食した郷土料理パースティ(pasty)もぜひ現地で!

電話:手持ちの携帯電話がSIMフリーなら、イギリス国内で使えるSIMカードを購入するという方法があります。また、Wi-Fiでつながるアプリ(LINE、Messenger、WhatsApp、Instagramなど)を連絡手段として利用する人もいます。リーチ工房内では、Wi-Fiを使うことができます。

セントアイヴス ウェブサイト (英語)

<https://www.stives-cornwall.co.uk/>



夏にはたくさんの観光客が訪れる
© Sarah White



パースティ
© Sarah White

